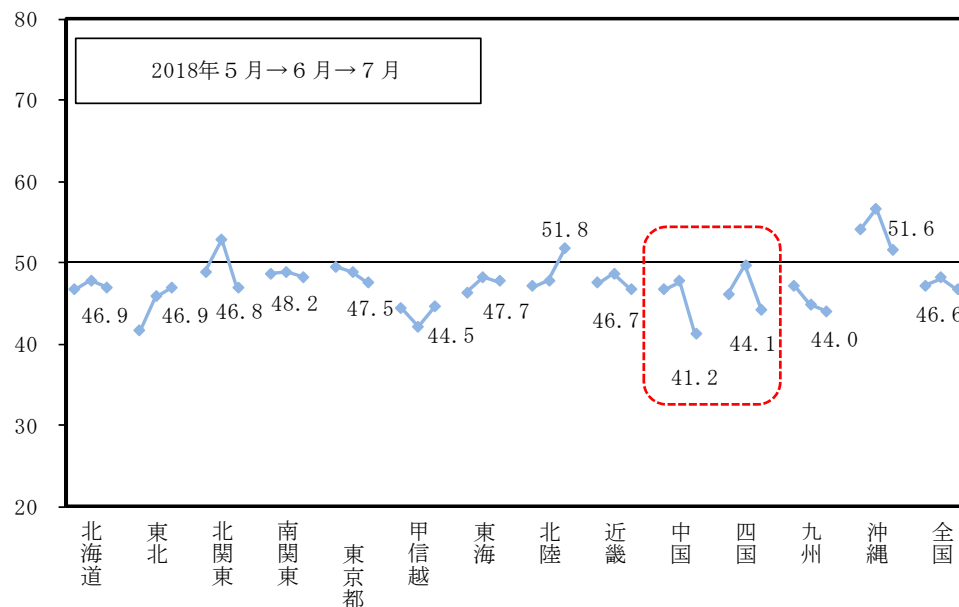


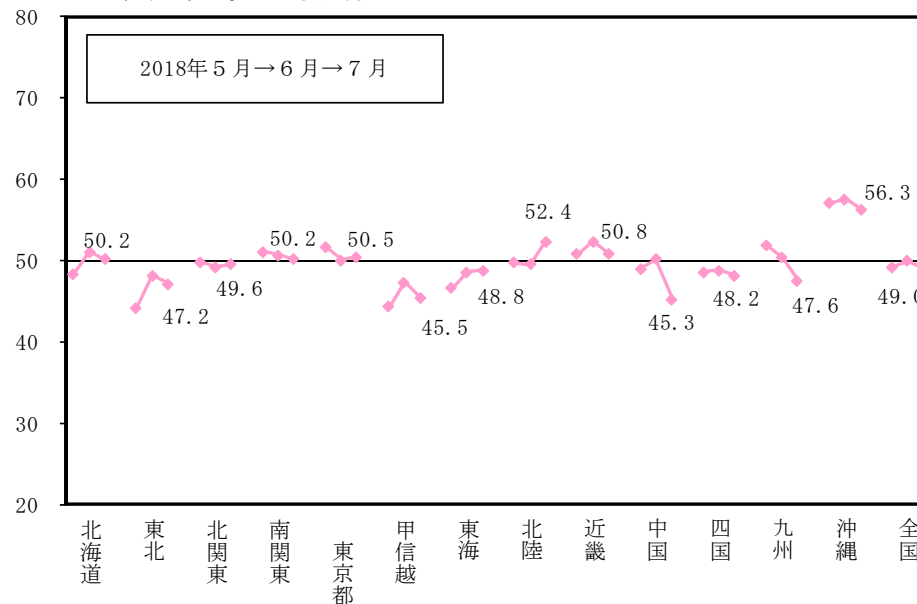
(参考)景気ウォッチャー調査における「平成30年7月豪雨」の影響

- 地域別現状判断DIでは、中国で41.2(前月差▲6.5ポイント)、四国で44.1(同▲5.6ポイント)となるなど、豪雨被害の影響が比較的大きかった地域において、DIの大幅な低下がみられた。
- 豪雨に関連するコメント数は現状で207件、先行きで166件となっており、中国、四国地域のみならず全国にわたって影響がみられた。

●地域別現状判断DI



●地域別先行き判断DI



●豪雨に関連するコメント数

※「豪雨」「大雨」「水害」「浸水」「洪水」「災害」のいずれかの単語を含むコメントの数を集計したもの

	現状 関連コメント数	先行き 関連コメント数	回答者数
全国	207 [11.2%]	166 [9.0%]	1851 [100.0%]
うち中国地域	70 [42.2%]	62 [37.3%]	166 [100.0%]
うち四国地域	19 [20.9%]	18 [19.8%]	91 [100.0%]

(備考) 「景気ウォッチャー調査」(2018年7月調査、調査期間:7月25日~31日)により作成。
「平成30年7月豪雨」は2018年6月28日から7月8日に発生した豪雨。

景気の現状に関するコメントにみられる影響

- 景気の現状に関しては、店舗の閉鎖や取引先の被災などの直接的な影響、小売店などの客足への影響、インフラへの被害による物流などの影響、旅行・観光への影響に関するコメント等があった。
- 旅行・観光への影響に関しては、全国的に幅広くコメントがみられた。

※◎:良、○:やや良、□:不変、▲:やや悪、×:悪 ※網掛けコメントは中国、四国地域以外のコメント

豪雨災害による直接的影響	客足への影響
□ ・平成30年7月豪雨で閉鎖する店舗が発生している一方で、営業している店舗は高温のため売上は増加している。(中国=コンビニ)	× ・平成30年7月豪雨以来、交通網の混乱で来客数が減少して売上も大幅に低下している。気温は非常に高く、販売量も増えない。(中国=百貨店)
□ ・平成30年7月豪雨により仕入先を含めた取引先や社員に被害がある。復興後の最終的な影響はまだ不明である。(中国=電気機械器具製造業)	× ・平成30年7月豪雨災害により、商圏の20%を占める地区が甚大な被害を受けており、来客数がかなり減少している。(中国=その他小売[ショッピングセンター])
▲ ・平成30年7月豪雨の影響で交通網の遮断や取引先の被害などで受注や工期が遅れ気味であり、景気はやや悪くなっている。(中国=木材木製品製造業)	× ・平成30年7月豪雨の影響で、レストラン、宴会共にキャンセルが続いている。(中国=高級レストラン)
▲ ・本社、工場の所在地によっては、平成30年7月豪雨の被害を受けている。(四国=金融業)	▲ ・セール期間の前倒しもあったが、平成30年7月豪雨や台風、猛暑の影響が重なり、来客数が大幅に減少したことで、売上は10%近くのマイナスで推移した。(四国=衣料品専門店)
インフラへの被害による物流などの影響	旅行・観光への影響
▲ ・平成30年7月豪雨で寸断された物流網の影響で、お中元などに多数の返品が発生していることに加え、猛暑による客足の低迷で売上が大きく減少し利益も大幅に低下している。(中国=食料品製造業)	□ ・平成30年7月豪雨の影響で旅行の中止が相次いでおり、しばらくは様子見状態である。(中国=旅行代理店)
▲ ・平成30年7月豪雨で鉄道輸送を始め倉庫など各方面で影響が出ている。加えて酷暑もあり、客の生産状況と出荷状況も流動的で影響が拡大していく。(中国=輸送業)	▲ ・猛暑や平成30年7月豪雨の影響により、個人旅行を中心に動きが鈍くなっている。団体旅行は先行予約が中心のため特に変化はないものの、今後の個人旅行の動きが気になるところである。(東北=旅行代理店)
▲ ・平成30年7月豪雨の影響で多少物流が鈍化している。また、猛暑の影響で野菜等の生活用品の価格が高騰し始めている。これほどの猛暑だと客の動きも鈍化している。(四国=商店街)	□ ・前年同月と比べると、3か月前と今月はほぼ横ばいに推移している。天候が良く、当初はプラスになるかと考えたが、平成30年7月豪雨やその後の酷暑の影響もあって、思ったほど来客数が伸びていないというのが現状である(北陸=テーマパーク)
□ ・人手不足や燃料費高騰を要因とする運送会社からの値上げが頻発している。荷主に対する価格転嫁交渉が難航しており、平成30年7月豪雨の影響で広島以北の物流に困窮するというダブルパンチがきている。JR山陽線の復旧が11月頃までかかる見通しであり、配送料も通常よりかなり高騰しているため、更に利益を圧迫している状況である。(九州=輸送業)	□ ・インバウンドは相変わらず好調であるが、旅行代理店経由の国内客による個人旅行は元気がなく、低迷し続けている。また7月については、平成30年7月豪雨や台風12号によるキャンセルも相次ぎ、売上に影響を与えている。(近畿=都市型ホテル)

景気の先行きに関するコメントにみられる影響

- 景気の先行きに関しては、消費マインド・自粛ムードへの懸念、農産物の値上がりに対する懸念がみられる。一方、復旧・復興に向けた動きへの期待に関するコメントもあった。
- 農産物の値上がりに関しては、全国的に幅広くコメントがみられた。

※◎:良、○:やや良、□:不変、▲:やや悪、×:悪 ※網掛けコメントは中国、四国地域以外のコメント

消費マインド・自粛ムードへの懸念	農産物の値上がりに対する懸念
<p>× <u>平成30年7月豪雨の影響で近隣市町村に多大な被害が出ているため、そこへの配慮から夏祭りや子供会の行事が取りやめになるなど自粛傾向である。消費動向は極めて厳しく、被災地の復旧にめどが立つまで現状が続く。(中国＝スーパー)</u></p>	<p>▲ <u>猛暑や平成30年7月豪雨の影響で値上がりしている農作物や畜産物の原価率が上昇し、客は生活防衛本能から外食を控え、ディナータイムの平日の売上は落ち込む。(中国＝一般レストラン)</u></p>
<p>□ <u>平成30年7月豪雨災害は観光業界に大きな影響を与えており、自粛ムードはしばらく払拭できない。先の大型祝賀会や企業の宴会などは軒並みキャンセルとなっており、復興のめどがつかない限り厳しい状況は続く。一方で個人のキャンセルは収まっており、一般消費は徐々に回復する。(中国＝都市型ホテル)</u></p>	<p>□ <u>全国的に猛暑や平成30年7月豪雨などの災害があり、農畜水産物への影響が出て、価格高騰が見込まれるため、今後も客の節約志向は変わらず、景気は横ばい又はやや悪くなる。(北海道＝スーパー)</u></p>
<p>□ <u>猛暑による来客数の減少は回復するが、平成30年7月豪雨の影響によるコンペの自粛は秋口まで続き、来客数は減少する。(中国＝ゴルフ場)</u></p>	<p>□ <u>先々の法人予約状況も前年並みであり、大きな変化はない。ただし、今回の平成30年7月豪雨や猛暑の影響により、仕入環境が厳しくなりそうである。(南関東＝高級レストラン)</u></p>
<p>▲ <u>平成30年7月豪雨による消費マインドの低下は、かなり長引く。(四国＝百貨店)</u></p>	<p>▲ <u>平成30年7月豪雨や猛暑による生鮮品の相場高などの影響が、今後どのように続くのか不安が残る。(北陸＝スーパー)</u></p>
復旧・復興に向けた動きへの期待	その他(風評被害、インフラ被害等)
<p>□ <u>平成30年7月豪雨で被災した車などの買換えが一時的に増えており、もうしばらくは現状が続く。(中国＝乗用車販売店)</u></p>	<p>▲ <u>平成30年7月豪雨の影響がいつまで続くのか見極めが難しい。風評被害で地元への観光を控える動きが国内のみならず世界的になることが懸念される。(中国＝都市型ホテル)</u></p>
<p>○ <u>平成30年7月豪雨災害を受けた建築の復旧や仮設住宅対策等に業界をあげて取り組むことが急務となり、今後の業務量は増える。(中国＝設計事務所)</u></p>	<p>▲ <u>平成30年7月豪雨によるインフラ被害の影響が大きく、復旧まで数か月掛かる。異常気象による高気温で消費が低迷し、農作物の被害による価格高騰等も懸念される。(中国＝会計事務所)</u></p>
<p>○ <u>当県は平成30年7月豪雨災害を受けており、その復興需要が急速に出ている。(四国＝設計事務所)</u></p>	<p>□ <u>平成30年7月豪雨災害によるインフラの麻ひが続き、求職活動は鈍り、登録者も減少する。(中国＝人材派遣会社)</u></p>
<p>○ <u>中国、四国、九州方面への旅行について、復興支援ツアーが増えると見込まれる。(近畿＝旅行代理店)</u></p>	<p>× <u>災害の影響で風評被害が落ち着くまでは難しい。また猛暑で外出が見込めない。(東海＝テーマパーク)</u></p>